

2020年6月15日

株 主 各 位

東京都中央区新川一丁目2番12号  
株式会社ジーンテクノサイエンス  
代表取締役社長 谷 匡 治

## 第20回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、当社第20回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申しあげます。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当日のご来場は控えていただきますよう強くお願い申し上げます。当日のご出席に代えて、書面によって議決権を行使することができますので、**お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2020年6月29日（月曜日）午後5時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。**

敬 具

記

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 1. 日 時             | 2020年6月30日（火曜日） 午前10時  |
| 2. 場 所             | 東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号<br>東京証券会館 9階 第4～5会議室<br>(本店を東京都中央区に移転しており、本年より株主総会の会場を変更することと致しました。末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。)             |
| 3. 会議の目的事項<br>報告事項 | 1. 第20期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件<br>2. 第20期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）計算書類の内容報告の件 |
| 決 議 事 項            |  |
| 第1号議案              | 定款一部変更の件   |
| 第2号議案              | 取締役3名選任の件  |
| 第3号議案              | 監査役3名選任の件  |

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

なお、株主総会参考書類、事業報告、連結計算書類及び計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト(URL <https://www.g-gts.com>)に掲載させていただきます。

## 第20回定時株主総会開催にあたってのご案内

当社では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本総会の開催および運営に関し、下記の対応をとらせていただくことといたします。ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、本総会におきましては当日会場にご来場されなくても、株主総会当日の議事進行の状況をライブ配信でご確認いただけます。後記の「ライブ配信のご案内」および同封の別紙をご確認ください。

### 記

- ・本総会の会場スタッフは、マスクを着用して対応させていただきます。
- ・本総会の会場入口付近にアルコール消毒液を配備いたします。また、ご来場の株主様は、マスクの持参・着用をお願い申し上げます。
- ・ご出席の株主様には本総会の会場内において間隔をあけてご着席いただきますので、会場スタッフの案内に従っていただきますようお願い申し上げます。
- ・本年は、座席間隔を拡げるため、本総会会場の座席数が例年より大幅に減少いたします。そのため、当日ご来場いただいても入場をお断りする場合がございます。
- ・発熱や咳などの症状のある株主様やその他体調不良の株主様には本総会会場への入場をお断りする場合がございます。
- ・本総会に出席する役員は、マスクを着用させていただく場合がございます。また、本総会に出席する役員のうち、一部の者はウェブ会議システムにより出席させていただく可能性がございます。

- ※ ご出席の株主様へのお土産の配布はございません。
- ※ 本年は株主様との懇談会の開催予定はございません。
- ※ 本総会当日までの感染拡大の状況や政府等の発表内容等により上記対応を更新する場合には当社ウェブサイト (<https://www.g-gts.com>) に掲載いたしますので、当社ウェブサイトにおける発信情報をご確認いただきますようお願い申し上げます。

## ライブ配信のご案内

本株主総会の模様につきましては、株主総会当日午前10時より、インターネットでライブ配信いたします。また、株主様からのコメントを受付け、可能な限り回答する予定です。視聴方法等の詳細につきましては、同封の別紙をご確認ください。

### 【ライブ配信に関するご注意事項】

- ① ご出席株主様の肖像権・プライバシー等に配慮し、中継にあたっては会場後方からの撮影とし、可能な範囲においてご出席株主様の容姿が撮影されないようにいたしますが、やむを得ずご出席株主様が映り込んでしまう場合がございますので、併せてご了承賜りますようお願い申し上げます。
- ② ライブ配信をご視聴いただくための通信料につきましては、株主様にてご負担くださいますようお願い申し上げます。また、ご使用の機器やネットワーク環境によってはご視聴いただけない場合がございます。
- ③ 万一、何らかの事情により中継を行わない場合は、当社ホームページにてお知らせいたします。
- ④ インターネットの接続方法やご視聴方法に関するお問い合わせにはお答えできませんので、ご了承賜りますようお願い申し上げます。
- ⑤ ライブ配信をご視聴の株主様は、株主総会に「出席」したものとは取り扱われない点、ご承知おきください。議決権行使につきましては、事前の書面による方法をご検討ください。
- ⑥ お送りいただいたコメント等については、必ずしもお答えできない場合がありますので予めご了承ください。

(添付書類)

## 事業報告

( 2019年4月1日から  
2020年3月31日まで )

### 1. 企業集団の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及び成果

当社は、新たな事業ステージを指すGTS3.0「バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー」を目標に掲げ、これまでの事業活動で得てきたバイオ技術に関するノウハウ及び知見を最大限活用し、従来より手掛けてきた希少疾患、難病に加えて、小児疾患を重点的なターゲットと定め、これらの疾患に悩む患者様、そのご家族や介護者の方を含めた包括的なケアを目指して、新薬のみならず新たな医療の開発・提供に取り組んでおります。具体的には、バイオ後続品事業で安定的な収益基盤を確立させつつ、バイオ新薬事業及び再生医療における細胞治療分野を軸とした新規バイオ事業で成長性を追求しております。

当連結会計年度における各事業の進捗状況は以下のとおりであります。

#### ① バイオ後続品事業

富士製薬工業(株)と持田製薬(株)による好中球減少症治療薬「フィルグラスチムBS」に続く品目として、(株)三和化学研究所と共同開発を行っていたダルベポエチンアルファバイオ後続品が、当社によって2019年11月27日より販売開始されました。今後、当社は同製品の売上高に応じたロイヤリティを受領することとなります。さらに、バイオ後続品事業をより拡充すべく取り組んだ結果、同12月に癸巳化成(株)とアフリベルセプトバイオ後続品にかかる共同開発契約の締結に至り、開発をスタートさせました。また、千寿製薬(株)と共同開発を行っている眼科治療領域のバイオ後続品につきましては、2020年2月に国内における第Ⅲ相臨床試験の最終患者の観察期間が終了いたしました。

#### ② バイオ新薬事業

次世代型抗体医薬品等の研究開発を進めた結果、2020年1月に、がん細胞内侵入能力を有する抗体を用いた抗がん剤の開発を目的として札幌医科大学との共同研究契約、同じくがん細胞殺傷効果を有する新たな抗体の取得を目的としてMabGenesis(株)との共同研究契約をそれぞれ締結いたしました。

### ③ 新規バイオ事業

当社は、GTS3.0の実現に向けて再生医療分野における新規バイオ事業を鋭意推進しております。当連結会計年度において、再生医療事業の研究開発において重要な研究ソースとなる歯髄幹細胞及び心臓内幹細胞を取り扱う(株)セルテックノロジー及び(株)日本再生医療を完全子会社化し、その両幹細胞を活用したプロジェクトの推進、アカデミア及び企業との共同研究又は提携を推進しております。

歯髄幹細胞については、歯髄幹細胞の疾患に対する適性を見極め、骨及び神経疾患といった分野で新たな治療法を提供できる可能性を複数のアカデミア及び企業に評価いただき、パイプラインの拡充に至りました。具体的には、当連結会計年度中に昭和大学と骨関連疾患、岐阜薬科大学と眼関連疾患、東京都医学総合研究所・名古屋大学医学部附属病院・東京医科歯科大学と脳性麻痺、大分大学と末梢神経麻痺、名古屋大学と脊髄損傷に関する共同研究契約をそれぞれ締結しました。加えて、2019年5月にはORTHOREBIRTH(株)と口唇口蓋裂の治療法創出に向けた共同研究開発契約、2020年3月には持田製薬(株)との腸管神経節細胞僅少症等の消化器領域における希少疾患・難病に対する再生医療等製品の共同事業化契約を締結しました。

心臓内幹細胞については、これまで資本提携関係にあった(株)日本再生医療を完全子会社化することで、小児の重篤な心臓疾患である機能的単心室症を主な対象とした再生医療等製品の開発品(開発番号:JRM-001)を当社のパイプラインに加えました。

また、再生医療分野での事業を進展させていくための重要なステップとして、当社及び(株)日本再生医療の開発経験、ノウハウなどを活用することにより、(株)ニコンの業務提携に基づき開発中であった、歯髄幹細胞を再生医療等製品として製品化するための基となるマスターセルバンク(MCB)製造法を改良し、2020年3月にMCB製造法を確立しました。これに加え、臨床試験の開始に向けてパートナー企業等との連携を強化していくために、MCBを原料とした最終製品の製造法確立に向けた取り組みを開始したことから当初の契約金額を上回る金額として、当連結会計年度に、受注損失引当金繰入額(売上原価)355,243千円を計上しています。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は1,077,737千円、営業損失は1,161,396千円、経常損失は1,187,254千円、親会社株主に帰属する当期純損失は7,316,396千円となりました。また、当連結会計年度は連結計算書類作成初年度であるため、

前年度との比較は行っておりません。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う当連結会計年度における業績への影響はありませんでした。

## (2) 資金調達の状況

当連結会計年度において、グループの所要資金として、金融機関より長期借入金として600,000千円の調達を実施しました。その他2019年10月16日及び2020年4月8日に第三者割当の方法により、いずれもCVI Investments, Inc.を割当先とした第2回及び第3回無担保転換社債型新株予約権付社債並びに第9回及び第10回新株予約権（行使価額修正条項付）を発行し、1,808,348千円の資金調達を行いました。なお、現時点で第9回及び第10回新株予約権は行使が行われておりません。

## (3) 重要な組織再編等の状況

当社は、2019年1月17日開催の取締役会において、当社を株式交換完全親会社、株式会社セルテクノロジーを株式交換完全子会社とする株式交換を実施することを決議し、同日付で同社と株式交換契約を締結いたしました。その後、2019年3月12日開催の当社臨時株主総会で本株式交換の承認を得て、2019年4月1日付で効力が発生いたしました。

また、2019年10月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社セルテクノロジーの歯髄幹細胞培養上清事業のうち、美容クリニック等向けの事業運営及び権利義務を株式会社レムケアに承継させる新設分割を行いました。

さらに、2020年2月17日付で株式会社日本再生医療の株式を取得し、完全子会社としました。

#### (4) 財産及び損益の状況の推移

##### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                              | 第 17 期 | 第 18 期 | 第 19 期 | 第 20 期<br>(当連結会計年度) |
|----------------------------------|--------|--------|--------|---------------------|
| 売 上 高 (千円)                       | —      | —      | —      | 1,077,737           |
| 経 常 損 失 ( △ ) (千円)               | —      | —      | —      | △1,187,254          |
| 親会社株主に帰属する当期<br>純 損 失 ( △ ) (千円) | —      | —      | —      | △7,316,396          |
| 1株当たり当期純損失(△) (円)                | —      | —      | —      | △264.65             |
| 総 資 産 (千円)                       | —      | —      | —      | 3,592,139           |
| 純 資 産 (千円)                       | —      | —      | —      | 1,487,390           |
| 1株当たり純資産額 (円)                    | —      | —      | —      | 51.73               |

(注) 1. 当連結会計年度より連結計算書類を作成しておりますので、第19期以前の状況は記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失は、自己株式を控除した期中平均株式数により、1株当たり純資産額は自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

##### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分                  | 第 17 期     | 第 18 期    | 第 19 期    | 第 20 期<br>(当事業年度) |
|----------------------|------------|-----------|-----------|-------------------|
| 売 上 高 (千円)           | 1,089,360  | 1,059,727 | 1,021,703 | 964,345           |
| 経 常 損 失 ( △ ) (千円)   | △1,176,763 | △903,215  | △816,412  | △1,007,062        |
| 当 期 純 損 失 ( △ ) (千円) | △1,224,554 | △904,557  | △856,291  | △7,316,415        |
| 1株当たり当期純損失(△) (円)    | △68.50     | △47.27    | △43.84    | △264.65           |
| 総 資 産 (千円)           | 3,706,224  | 3,025,172 | 3,151,358 | 3,524,700         |
| 純 資 産 (千円)           | 3,500,246  | 2,604,037 | 2,731,269 | 1,487,371         |
| 1株当たり純資産額 (円)        | 181.69     | 134.37    | 132.55    | 51.73             |

(注) 1. 1株当たり当期純損失は、自己株式を控除した期中平均株式数により、1株当たり純資産額は自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

2. 当社は、2016年10月1日及び2018年7月1日付でそれぞれ株式1株につき2株の株式分割を行っております。第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純損失を算定しております。

(5) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 子会社の状況

| 会 社 名        | 資 本 金 | 当 社 の<br>議 決 権 比 率 | 主 要 な 事 業 内 容                                          |
|--------------|-------|--------------------|--------------------------------------------------------|
| 株式会社セルテクノロジー | 94百万円 | 100%               | 再生医療事業<br>歯髄幹細胞培養上清事業（医薬品研究開発）                         |
| 株式会社日本再生医療   | 10百万円 | 100%               | 再生医療技術・製品、細胞医薬品の研究開発<br>当該技術・製品の顧客に対する技術提供及び製品・サービスの提供 |
| 株式会社レムケア     | 2百万円  | 100%<br>(※)        | 歯髄幹細胞培養上清事業（美容クリニック等向け事業）                              |

- (注) 1. 当社の議決権比率の※印は、間接保有を含んでおります。  
2. 当社は、2019年4月1日に株式交換により株式会社セルテクノロジーの全株式を取得し、完全子会社といたしました。  
3. 2020年2月17日付で株式会社日本再生医療の全株式を取得し、同社を完全子会社といたしました。  
4. 2019年10月1日付で、当社の完全子会社である株式会社セルテクノロジーの歯髄幹細胞培養上清事業（美容クリニック等向け事業）を株式会社レムケアに承継させる会社分割（新設分割）を行いました。

③ その他の重要な企業結合の状況

ノーリツ鋼機バイオホールディングス合同会社及び同社の親会社であるノーリツ鋼機株式会社は、当社の議決権を34.26%所有しており、当社はノーリツ鋼機株式会社の持分法適用の関連会社であります。



## (6) 対処すべき課題

### ① バイオ新薬の開発

バイオ新薬事業では、ライセンスアウト先が望むデータを揃え、ネットワークやビジネスチャンスを最大限に活用して、早期にライセンスアウトを実現させることが重要であると考えております。

なお、パイプライン拡充のための具体的な取組み等は、以下のとおりであります。

#### イ 抗RAMP2抗体（開発番号：GND-004、対象疾患領域：眼科疾患、がん）への取組み

次世代型抗体医薬品等の研究開発を進めた結果、新規メカニズムに基づく新生血管形成を阻害する抗RAMP2抗体を創出することに成功しました。本開発品は、眼疾患の治療並びにがん領域における抗腫瘍効果を期待できる医薬品候補として、2017年9月に当該抗体に関する特許を出願し、2018年9月には国際特許出願を行いました。今後は、知的財産権の確保を図りながら研究開発を進め、製薬企業へのライセンスアウトを目指してまいります。

#### ロ 新規抗体

2020年1月には、がん細胞内侵入能力を有する抗体を用いた抗がん剤の開発を目的として札幌医科大学との共同研究契約、同じくがん細胞殺傷効果を有する新たな抗体の取得を目的としてMabGenesis(株)との共同研究契約をそれぞれ締結いたしました。今後は共同研究を進め、製薬企業へのライセンスアウトを目指してまいります。

#### ハ バイオ新薬候補品の充実

バイオ新薬は、研究活動によって新薬のシーズを見つけ、次に、細胞レベル・小動物レベルでの有効性を確認した上で特許などの産業財産権による権利化を行い、ここで初めて公開することができます。引き続き、将来顕在化しそうな疾患領域や現時点では満足な治療法がない疾患領域を見極め、外部機関との連携も活かしながら研究開発を行っていく所存であります。

### ② バイオ後続品の開発

当社は、フィルグラスチムバイオ後続品の開発において培った経験とノウハウを発展的に応用することで、新たなバイオ後続品を開発を効率的かつ優

位に進めることが可能であると考えております。今後、バイオ後続品事業は世界的な競争により拍車がかかると想定されることから、開発品目の選定は多面的な評価をした上で慎重に行い、選定した開発品目については開発リスク低減のために早期に提携関係を構築し、効率的な開発を心掛けてまいります。バイオ後続品の上市に伴う新たな収益源を確保することで、将来の財務基盤の強化に努めてまいります。

なお、パイプライン拡充のための具体的な取組み等は、以下のとおりであります。

イ ペグフィルグラスチムバイオ後続品（開発番号：GBS-010、対象疾患領域：がん）への取組み

当該先行品は、フィルグラスチムにPEG（ポリエチレングリコール）を修飾することで、投与回数を減らし効果の持続性を増すなど、高付加価値を付与した次世代型フィルグラスチムであります。当該医薬品の原料が既に日本で上市しているフィルグラスチムであることから、フィルグラスチムバイオ後続品を有する点で当社は他社に比してペグフィルグラスチムの開発を進める上で優位性があります。また、当社は当該バイオ後続品の原薬製造プロセスを既に確立し、先行品との同等性・同質性に関する良好なデータを得ておりますので、これを訴求データとして国内外の製薬企業との早期の提携を実現すべく、今後も引き続き上市に向けて鋭意取り組んでまいります。

ロ がん治療領域のバイオ後続品への取組み

がんの治療法は日進月歩であり、バイオ医薬品への期待は高く、現在、世界の医薬品市場の上位一角を占めるのはがん治療に係るバイオ医薬品です。当社は、2016年12月に持田製薬(株)とのがん治療領域におけるバイオ後続品の共同事業化契約を締結し、開発を開始しました。今後は相互協力の下、本開発品の上市に向けて鋭意取り組んでまいります。

ハ ラニビズマブバイオ後続品（開発番号：GBS-007、対象疾患：眼疾患）への取組み

世界的な高齢化社会の進展や生活習慣の変化に伴い、黄斑変性症等の眼疾患の患者が増加しております。これらの治療薬としてバイオ医薬品が注目されておりますが、当該領域のバイオ医薬品は高額であり、様々な患者様にご使用頂くためにもバイオ後続品の開発の社会的必要性を感じております。当社は、2016年5月より眼科領域に専門性の高い千寿製薬(株)と当該領域におけるバイオ後続品の共同開発を開始しており、2020年2月に第Ⅲ

相臨床試験における最終の患者の観察期間が終了いたしました。今後も引き続き同社と協働の下、本製品の製造販売承認取得を目指してまいります。

ニ アフリベルセプトバイオ後続品（開発番号：GBS-012、対象疾患：眼疾患）への取組み

当社は、2019年12月に癸巳化成㈱とアフリベルセプトバイオ後続品に関する事業化を目的とした共同開発契約を締結しました。今後は、当該バイオ後続品の高生産株を用いて原薬の製造プロセスを確立しつつ、この原薬を基に製剤開発、非臨床試験、臨床試験、製造販売承認取得、販売等で必要となる第三者提携先を探索し、当該バイオ後続品の事業化に向けた体制構築を進めてまいります。

③ 新規バイオ事業における再生医療等製品の開発

当社は、将来の成長性を追求するため、再生医療における細胞治療分野をターゲットとした再生医療等製品の開発を進めております。次世代医療である再生医療は、未だ根治が望めない重篤な疾患に対して、新たな治療法を提供できる可能性があります。当社は歯髄幹細胞及び心臓内幹細胞を研究ソースとして様々な大学等の研究機関及び企業と共同研究又は提携を行い、新たな治療法を待つ患者様へ一日でも早く貢献するべく、研究開発活動を推進しております。

なお、パイプライン拡充のための具体的な取組み等は、以下のとおりであります。

イ 心臓内幹細胞を活用した再生医療等製品の開発（開発番号：JRM-001、対象疾患：小児先天性心疾患）

当社の子会社である㈱日本再生医療は、小児先天性心疾患を軸とした重篤な心疾患に対する新たな治療法を提供するため、心臓内幹細胞と呼ばれる心臓内に存在する多能性のある体性幹細胞を用いた世界初となる再生医療等製品の実用化を目指し研究開発を推進しております。生まれながらに心臓に何らかの異常をもつ小児先天性疾患は新生児 100 人に 1 人の割合で発症するとされ、当該開発品はこれらの症状を改善するために、手術で得られた心臓の切片から、高い自己複製能力を持ち、心臓にまつわる心筋細胞へ分化することができる心臓内幹細胞を培養し、これらを患者様本人へ投与することで心機能の改善を図るものであります。

ロ 歯髄幹細胞を活用した再生医療等製品の開発（開発番号：GCT-101、対象疾患：口唇口蓋裂）

口唇口蓋裂は、口腔の先天的な発生異常によって生じる疾患で、発生時

に口蓋の片側が閉鎖しないことで裂が残る先天性疾患の一つです。歯髄幹細胞は、発生学的に神経堤細胞由来であり、優れた骨再生能力を有していることから、唇顎裂の再生医療には最適な細胞ソースであるため、当社はORTHOREBIRTH(株)が保有する綿状の人工骨充填材レボシスが歯髄幹細胞との組み合わせることで新たな治療法を創出できると考え、同社と共同研究契約を締結し、開発活動を行っております。

ハ 歯髄幹細胞を活用した再生医療等製品の開発（開発番号：GCT-102、対象疾患：腸管神経節細胞僅少症）

腸管神経節細胞僅少症は、腸管の蠕動運動を司る神経細胞の不足により腸閉塞症状を示す難病で、効果的な治療方法がまだ確立されていません。歯髄幹細胞は腸管神経節細胞と同じ神経堤由来の細胞であるため、投与された歯髄幹細胞が不足している腸管神経節細胞を補う働きをすることにより、腸管蠕動運動が回復することが期待できます。当社は、当該疾患を対象とした再生医療等製品を開発するべく、持田製薬(株)と共同事業化契約を締結し、当社が保有する歯髄幹細胞と持田製薬(株)の消化器領域における知見と実績を組み合わせることで、新たな治療法の創出を目指してまいります。

ニ 歯髄幹細胞を活用した再生医療等製品開発のための大学との共同研究

当社は、歯髄幹細胞が神経堤由来の細胞であることに着目し、この特性に適性のある疾患を選定し、様々な大学と当該疾患に対する新たな治療法を創出するべく、共同研究契約を締結し、基礎研究を進めております。具体的には、昭和大学と骨関連疾患、岐阜薬科大学と眼関連疾患、東京都医学総合研究所・名古屋大学医学部附属病院・東京医科歯科大学と脳性麻痺、大分大学と末梢神経麻痺、名古屋大学と脊髄損傷に関する共同研究を進めております。

④ バイオ医薬品事業全般における優位性の確保

イ 開発品目の優先順位

上述のとおり当社は主要事業のいずれにおいても複数の開発品目を保有しており、限られた人員と資金を効率的に投下して最大限の成果を上げられるよう日々深慮し、提携先の製薬企業や委託先と協業の下、当社の開発品目の価値最大化に努めております。その一方で、バイオ医薬品の市場動向、各疾患領域の標準治療法、競合他社の開発状況等も日々変化しています。当社は、社内外の様々な要因を適時勘案し、当社の開発品目の優先順位を柔軟に見直しながら、当社の開発品目の市場優位性を確保しつつ、企業価値の最大化を図ってまいります。

## ロ 製品の競争優位性の確保

医薬品にとって原薬の品質と製造費用は重要ですが、とりわけバイオ医薬品にはその2点が長期的な事業を行う上で最重要な事項となります。当社としては、その点のみならず、製品の使い勝手（ユーザビリティ）が市場優位性を左右するものと考えております。そこで、当社は原薬製造の供給体制及び製造費用に関わる製造委託先との製法開発に注力するとともに、製剤においても医療現場や患者の使い勝手に優れた製品を目指し、デバイス企業との協議にも積極的に取り組んでまいります。

## ⑤ 提携による事業推進

当社は、成長著しいバイオ医薬品及び新規バイオ事業の開発に注力し、未だ有効な治療法がない疾患を対象とするバイオ新薬並びに再生医療等製品の開発に取り組んでおります。ただし、当社の経営資源には限りがあることから、経営資源を効率的に活かすために提携によって補完し得る企業と事業推進を図る必要があります。

一方、バイオ後続品の開発においては、アジアや欧米の製造委託先についても、密接な人的交流をもとにネットワークの形成とその充実を図っております。また、グローバル製薬企業がバイオ後続品にも取り組み始めておりますので、品質・製造費用・製剤などで差別化できる提案を行い、グローバル製薬企業との提携を目指す必要があります。

以上のように、当社は積極的に共同研究・事業提携・製造などに関わるネットワークを構築し、国内外の製薬企業とのライセンスアウトに繋げ、人的・資金的資源を効率的に組み合わせながら事業の推進を図ってまいります。

## ⑥ ネットワークの強化

当社はビジネスモデルとしてバーチャル型の経営を掲げております。また、自社だけでは解決できない課題に対し、社外の経営資源も含めた最適な組合せを構築し、迅速かつ積極的に解決を図ってまいります。また、今後推進していく新規バイオ事業に関する事業のシーズの探索にもネットワークが必要となります。これらのネットワークの構築には、社外との情報交換を積極的に行い、情報集約力を高め、ネットワークのシナジーを最大限に発揮させられる人財の育成が重要であると考えております。

## ⑦ コンプライアンス・リスク管理体制及びコーポレート・ガバナンスの強化

当社が円滑に社外ネットワークを構築していくためには、当社の社会的信用を維持・向上させていくことが重要であると認識しております。当社の取引先の多くは上場企業など社会的信用のある会社や公的研究機関であり、対等な取引関係を維持していくためには、当社にも相応の社会的信用が必要に

なります。

このような観点から、当社は小規模組織ではありますが、十分な信頼が得られるよう継続的にコンプライアンス及びそのリスクに対する意識の向上及び内部統制の強化を図ってまいります。また、全てのステークホルダーのニーズに対して組織的かつ的確に対応できるよう、コーポレート・ガバナンスの改善を図り、経営の公正性・透明性を高めてまいります。

(7) 主要な事業内容（2020年3月31日現在）

| 区 分     | 主 な 内 容                                   |
|---------|-------------------------------------------|
| 医薬品開発事業 | ・ バイオ新薬の開発<br>・ バイオ後続品の開発<br>・ 再生医療等製品の開発 |

(8) 主要な事業所（2020年3月31日現在）

① 当社

| 名 称   | 所 在 地                                       |
|-------|---------------------------------------------|
| 本 社   | 東京都中央区新川一丁目2番12号                            |
| 研 究 所 | 札幌市北区（北海道大学創成研究機構生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター内） |

(注) 本社は、2019年7月1日に札幌市中央区から移転しました。

② 子会社

| 名 称          | 所 在 地                                    |
|--------------|------------------------------------------|
| 株式会社セルテクノロジー | 本社（東京都中央区新川一丁目2番12号3階）<br>東京研究所（東京都江戸川区） |
| 株式会社日本再生医療   | 本社（東京都港区芝大門二丁目5番5号）                      |
| 株式会社レムケア     | 本社（東京都中央区新川一丁目2番12号3階）                   |

(9) 従業員の状況（2020年3月31日現在）

① 企業集団の従業員の状況 45名

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は含まれておりません。  
2. 当期より企業集団の従業員の状況を記載しているため、前期との比較は行って  
おりません。

② 当社の従業員の状況

| 従業員数 | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|-----------|-------|--------|
| 29名  | 3名増       | 48.5歳 | 4.2年   |

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は含まれておりません。

(10) 主要な借入先の状況（2020年3月31日）

① 当社

| 借入先       | 借入額    |
|-----------|--------|
| 株式会社みずほ銀行 | 600百万円 |

② 子会社

| 名 称          | 借入先       | 借入額   |
|--------------|-----------|-------|
| 株式会社セルテクノロジー | 株式会社みずほ銀行 | 25百万円 |

## 2. 会社の株式に関する事項（2020年3月31日現在）

(1) 発行可能株式総数 46,000,000株

(2) 発行済株式の総数 27,646,986株

(注) 2019年4月1日付で実施した株式交換及び新株予約権の権利行使により、発行済株式の総数は、7,304,540株増加しております。

(3) 株主数 4,080名

### (4) 大株主

| 株 主 名                                                            | 持 株 数     | 持 株 比 率 |
|------------------------------------------------------------------|-----------|---------|
| ノーリツ鋼機バイオホールディングス合同会社                                            | 9,471,832 | 34.26%  |
| 大 友 宏 一                                                          | 1,670,750 | 6.04    |
| ナ ノ キ ャ リ ア 株 式 会 社                                              | 1,000,000 | 3.62    |
| 野村信託銀行株式会社（信託口2052241）                                           | 751,000   | 2.72    |
| J S R 株 式 会 社                                                    | 686,814   | 2.48    |
| BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)<br>（常任代理人株式会社三菱UFJ銀行） | 611,800   | 2.21    |
| 千 寿 製 薬 株 式 会 社                                                  | 555,200   | 2.01    |
| 小 池 太 郎                                                          | 520,000   | 1.88    |
| 片 山 晃                                                            | 468,700   | 1.70    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）                                        | 439,700   | 1.59    |

(注) 持株比率は自己株式（92株）を控除して計算しております。



### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

(1) 当連結会計年度の末日において、当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

|                        |                   | 第5回新株予約権                                  | 第7回新株予約権                                  | 第8回新株予約権                                  |
|------------------------|-------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 発行決議日                  |                   | 2016年7月12日                                | 2018年9月14日                                | 2019年8月8日                                 |
| 新株予約権の数                |                   | 10個                                       | 60個                                       | 65個                                       |
| 新株予約権の目的となる株式の種類と数     |                   | 普通株式 4,000株<br>(新株予約権1個につき 400株)          | 普通株式 6,000株<br>(新株予約権1個につき 100株)          | 普通株式 6,500株<br>(新株予約権1個につき 100株)          |
| 新株予約権の払込金額             |                   | 無償                                        | 無償                                        | 無償                                        |
| 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額 |                   | 新株予約権1個あたり 366,400円<br>(1株当たり 916円)       | 新株予約権1個あたり 100円<br>(1株当たり 1円)             | 新株予約権1個あたり 100円<br>(1株当たり 1円)             |
| 権利行使期間                 |                   | 2018年7月28日から<br>2026年6月30日まで              | 2021年10月3日から<br>2023年10月2日まで              | 2022年8月28日から<br>2024年8月27日まで              |
| 行使の条件                  |                   | (注) 1                                     | (注) 2                                     | (注) 2                                     |
| 役員<br>の<br>保有<br>状況    | 取締役<br>(社外取締役を除く) | 新株予約権の数 10個<br>目的となる株式数 4,000株<br>保有者数 1名 | 新株予約権の数 25個<br>目的となる株式数 2,500株<br>保有者数 1名 | 新株予約権の数 30個<br>目的となる株式数 3,000株<br>保有者数 1名 |
|                        | 社外取締役             | 新株予約権の数 一個<br>目的となる株式数 一株<br>保有者数 一名      | 新株予約権の数 15個<br>目的となる株式数 1,500株<br>保有者数 1名 | 新株予約権の数 15個<br>目的となる株式数 1,500株<br>保有者数 1名 |
|                        | 監査役               | 新株予約権の数 一個<br>目的となる株式数 一株<br>保有者数 一名      | 新株予約権の数 20個<br>目的となる株式数 2,000株<br>保有者数 3名 | 新株予約権の数 20個<br>目的となる株式数 2,000株<br>保有者数 3名 |

(注) 1. 第5回新株予約権の行使条件は、以下のとおりであります。

- (1) 新株予約権者は、新株予約権の権利行使の時点において、当社又は当社子会社の取締役、監査役又は従業員いずれかの地位にある場合に限り、新株予約権を行使することができる。ただし、当社又は当社子会社の取締役又は監査役の任期満了による退任、当社又は当社子会社の従業員の定年による退職、その他正当な事由により、当社又は当社子会社の取締役、監査役又は従業員の地位を喪失した場合はこの限りではない。
- (2) その他の条件については、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。

2. 第7回、第8回新株予約権の行使条件は、以下のとおりであります。

- (1) 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社又は当社関係会社の取締役、監査役又は従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- (2) 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。
- (3) 本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。
- (4) 本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

3. 当社は、2016年10月1日及び2018年7月1日付でそれぞれ普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っているため、「新株予約権の目的となる株式の種類と数」及び「新株予約権の行使に際して出資される財産の価額」は当該分割に基づき調整されております。

(2) 当連結会計年度中に職務執行の対価として従業員等に対し交付した新株予約権の状況

|                    |        | 第8回新株予約権             |                  |
|--------------------|--------|----------------------|------------------|
| 新株予約権の数            |        |                      | 935個             |
| 新株予約権の目的となる株式の種類と数 |        | 普通株式<br>(新株予約権1個につき) | 93,500株<br>100株) |
| 従業員等への交付状況         | 当社従業員  | 新株予約権の数              | 640個             |
|                    |        | 目的となる株式数<br>保有者数     | 64,000株<br>27名   |
|                    | 子会社従業員 | 新株予約権の数              | 295個             |
|                    |        | 目的となる株式数<br>保有者数     | 29,500株<br>9名    |

(注) 第8回新株予約権の払込金額、行使に際して出資される財産の価額、権利行使期間及び行使条件は、(1)に記載のとおりであります。

(3) その他新株予約権等に関する重要な事項

|                    | 第9回新株予約権                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 第10回新株予約権                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行決議日              | 2019年9月30日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2020年3月23日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 新株予約権の総数           | 7,298個                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 16,284個                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 新株予約権の目的となる株式の種類と数 | 普通株式 729,800株<br>(新株予約権1個につき 100株)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 普通株式 1,628,400株<br>(新株予約権1個につき 100株)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 新株予約権の払込金額         | 新株予約権1個あたり 479円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 新株予約権1個あたり 298円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 行使価額及び行使価額の修正条件    | <p>当初行使価額740円<br/>                     本新株予約権の行使価額は、2020年4月17日、2020年10月17日、2021年4月17日、2021年10月17日、2022年4月17日、2022年10月17日、2023年4月17日及び2023年10月17日（以下、「本新株予約権修正日」といいます。）の各日において、本新株予約権修正日以降、<br/>                     (i) 当該本新株予約権修正日に先立つ15連続取引日において、東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の売買高加重平均価格の最も低い2つの価額の合計金額を2で除した金額（1円未満の端数切り上げ）の90%に相当する金額の1円未満の端数を切り上げた金額、又は(ii) 当該本新株予約権修正日において有効な行使価額のいずれか低い金額に修正されます。但し、上記修正条項に従って計算された価額が下限行使価額を下回る場合には、修正後の金額は下限行使価額となります。</p> | <p>当初行使価額479円<br/>                     本新株予約権の行使価額は、2021年1月9日、2021年7月9日、2022年1月9日、2022年7月9日、2023年1月9日、2023年7月9日、2024年1月9日及び2024年7月9日（以下、「本新株予約権修正日」といいます。）の各日において、本新株予約権修正日以降、<br/>                     (i) 当該本新株予約権修正日に先立つ15連続取引日において、東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の売買高加重平均価格の最も低い2つの価額の合計金額を2で除した金額（1円未満の端数切り上げ）の90%に相当する金額の1円未満の端数を切り上げた金額、又は(ii) 当該本新株予約権修正日において有効な行使価額のいずれか低い金額に修正されます。但し、上記修正条項に従って計算された価額が下限行使価額を下回る場合には、修正後の金額は下限行使価額となります。</p> |
| 新株予約権の行使期間         | 2019年10月17日から<br>2023年10月17日まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 2020年4月9日から<br>2024年7月9日まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 割当先                | 第三者割当ての方法により、発行した新株予約権の総数をCVI Investments, Inc. に割り当てた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 第三者割当ての方法により、発行した新株予約権の総数をCVI Investments, Inc. に割り当てた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

|                            | 第2回無担保転換社債型新株予約権<br>付社債に付された新株予約権                                                                                                                    | 第3回無担保転換社債型新株予約権<br>付社債に付された新株予約権                                                                                                                    |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行決議日                      | 2019年9月30日                                                                                                                                           | 2020年3月23日                                                                                                                                           |
| 社債に付された<br>新株予約権の総数        | 30個                                                                                                                                                  | 30個                                                                                                                                                  |
| 新株予約権の<br>目的となる株式<br>の種類と数 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とする。</li> <li>・新株予約権の目的である株式の数は、新株予約権に係る社債の金額の総額を発行要項に定める転換価額で除して得られる数とする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とする。</li> <li>・新株予約権の目的である株式の数は、新株予約権に係る社債の金額の総額を発行要項に定める転換価額で除して得られる数とする。</li> </ul> |
| 新株予約権の<br>払込金額             | 新株予約権と引換えに払い込みを要しない                                                                                                                                  | 新株予約権と引換えに払い込みを要しない                                                                                                                                  |

|                              | 第2回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 第3回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額 | <p>本新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、その行使により当社が当社普通株式を新たに発行し又はこれに代えて当社の保有する当社普通株式を処分する数は、行使請求に係る本社債の払込金額の総額を以下に定める転換価額で除した数とする。但し、行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。</p> <p>各本新株予約権の行使に際して出資される財産は、当該本新株予約権に係る本社債とし、出資される財産の価額は、当該本新株予約権に係る本社債の金額と同額とする。</p> <p>転換価額は、当初740円とする。但し、転換価額は発行要項の以下規定に従って修正又は調整される。</p> <p>2020年4月17日、2020年10月17日、2021年4月17日、2021年10月17日、2022年4月17日及び2022年10月17日（以下、個別に又は総称して「修正日」という。）において、当該修正日に先立つ15連続取引日において、東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の売買高加重平均価格の最も低い2つの価額の合計金額を2で除した金額（1円未満の端数切り上げ）の91%に相当する金額の1円未満の端数を切り上げた金額、又は当該修正日において有効な転換価額のいずれか低い方に修正される。但し、修正日にかかる修正後の転換価額が370円を下回ることとなる場合には転換価額は下限転換価額とする。</p> | <p>本新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、その行使により当社が当社普通株式を新たに発行し又はこれに代えて当社の保有する当社普通株式を処分する数は、行使請求に係る本社債の払込金額の総額を以下に定める転換価額で除した数とする。但し、行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。</p> <p>各本新株予約権の行使に際して出資される財産は、当該本新株予約権に係る本社債とし、出資される財産の価額は、当該本新株予約権に係る本社債の金額と同額とする。</p> <p>転換価額は、当初479円とする。但し、転換価額は発行要項の以下規定に従って修正又は調整される。</p> <p>2021年1月9日、2021年7月9日、2022年1月9日、2022年7月9日、2023年1月9日及び2023年7月9日（以下、個別に又は総称して「修正日」という。）において、当該修正日に先立つ15連続取引日において、東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の売買高加重平均価格の最も低い2つの価額の合計金額を2で除した金額（1円未満の端数切り上げ）の91%に相当する金額の1円未満の端数を切り上げた金額、又は当該修正日において有効な転換価額のいずれか低い方に修正される。但し、修正日にかかる修正後の転換価額が240円を下回ることとなる場合には転換価額は下限転換価額とする。</p> |
| 新株予約権の行使期間                   | 2019年10月16日から<br>2022年10月17日まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 2020年4月8日から<br>2023年7月31日まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 割当先                          | 第三者割り当ての方法により、発行した新株予約権の総数をCVI Investments, Inc.に割り当てた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 第三者割り当ての方法により、発行した新株予約権の総数をCVI Investments, Inc.に割り当てた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役及び監査役の状況（2020年3月31日現在）

| 地 位       | 氏 名     | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                                                                              |
|-----------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長   | 谷 匡 治   |                                                                                                      |
| 取締役（非常勤）  | 野 口 亮   | 株式会社日本再生医療 代表取締役社長                                                                                   |
| 取締役（非常勤）  | 栄 木 憲 和 | 株式会社ファンベップ 社外取締役<br>東和薬品株式会社 社外取締役<br>ソレイジア・ファーマ株式会社 社外取締役<br>アンジェス株式会社 社外取締役                        |
| 常 勤 監 査 役 | 林 昭 彦   |                                                                                                      |
| 監査役（非常勤）  | 森 正 人   | 森会計事務所 所長<br>ソーバル株式会社 社外監査役                                                                          |
| 監査役（非常勤）  | 甚 野 章 吾 | 甚野公認会計士事務所 所長<br>北斗税理士法人代表社員 所長<br>札幌監査法人 代表社員<br>株式会社北の達人コーポレーション 社外監査役<br>株式会社グラフィックホールディングス 社外監査役 |

- (注) 1. 取締役栄木憲和氏は、社外取締役であります。
2. 監査役森正人及び監査役甚野章吾の両氏は、社外監査役であります。
3. 監査役森正人及び監査役甚野章吾の両氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 当社は、社外取締役栄木憲和氏並びに社外監査役森正人氏及び社外監査役甚野章吾氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
5. 取締役野口亮氏は、株式会社日本再生医療の代表取締役であり、同社は当社の完全子会社であります。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分                | 人 数        | 報 酬 等 の 総 額            |
|--------------------|------------|------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 2名<br>(1名) | 22,306千円<br>(4,887千円)  |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 3名<br>(2名) | 12,917千円<br>(5,258千円)  |
| 合 計<br>(うち社外役員)    | 5名<br>(3名) | 35,223千円<br>(10,146千円) |

- (注) 1. 取締役の報酬限度額は、2009年6月24日開催の第9回定時株主総会において、年額100,000千円以内（ただし、従業員分給与は含まない。）と決議されております。また、この金銭報酬の範囲内にて、取締役については年額30,000千円以内（うち、社外取締役は10,000千円以内）で株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を発行することを2018年6月28日開催の第18回定時株主総会にて決議されております。さらに、これとは別枠で、2015年6月25日開催の第15回定時株主総会において、取締役（社外取締役を除く。）に対する報酬等として年額20,000千円の範囲内でストック・オプションとして新株予約権を発行することにつき決議されております。
2. 監査役の報酬限度額は、2009年6月24日開催の第9回定時株主総会において、年額30,000千円以内と決議されております。また、この金銭報酬の範囲内にて、監査役については年額10,000千円以内（うち、社外監査役は5,000千円以内）で株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を発行することを2018年6月28日開催の第18回定時株主総会にて決議されております。
3. 上記の報酬等の総額には、ストック・オプション報酬として割り当てた新株予約権に係る当連結会計年度における費用計上額として、次の金額が含まれております。
- ・取締役2名 1,906千円
  - ・監査役3名 917千円
4. 取締役野口亮氏は、無報酬の取締役であります。

### (3) 社外役員に関する事項

#### ① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・取締役栄木憲和氏は、株式会社ファンペップの社外取締役、東和薬品株式会社の社外取締役、ソレイジア・ファーマ株式会社の社外取締役及びアンジェス株式会社の社外取締役であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。
- ・監査役森正人氏は、森会計事務所所長及びソーバル株式会社の社外監査役であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。
- ・監査役甚野章吾氏は、甚野公認会計士事務所所長、北斗税理士法人代表社員所長、札幌監査法人代表社員、株式会社北の達人コーポレーションの社外監査役及び株式会社グラフィックホールディングスの社外監査役であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。

#### ② 当連結会計年度における主な活動状況

| 区 分       | 氏 名     | 主 な 活 動 状 況                                                               |
|-----------|---------|---------------------------------------------------------------------------|
| 社 外 取 締 役 | 栄 木 憲 和 | 当連結会計年度に開催された取締役会19回のすべてに出席し、主に経営、事業開発面での発言を行っております。                      |
| 社 外 監 査 役 | 森 正 人   | 当連結会計年度に開催された取締役会19回及び監査役会16回のすべてに出席し、主に財務、会計及び内部統制面での発言を行っております。         |
|           | 甚 野 章 吾 | 当連結会計年度に開催された取締役会19回のうち18回及び監査役会16回のうち15回に出席し、主に財務、会計及び内部統制面での発言を行っております。 |

(注) 上記の取締役会の開催数のほか、会社法第370条及び当社定款第26条の規定に基づき、取締役会決議があったものとみなす書面決議が6回ありました。

#### ③ 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。



## 5. 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の名称

有限責任 あずさ監査法人

### (2) 会計監査人の報酬等の額

|                                | 報 酬 等 の 額 |
|--------------------------------|-----------|
| 当連結会計年度に係る会計監査人の報酬等の額          | 21,000千円  |
| 当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 21,000千円  |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できないことから、当連結会計年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積の算出根拠等について検討したうえで、会計監査人の報酬等の額に同意しております。

### (3) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

また、上記による場合のほか、監査役会が所定の手続により会計監査人の職務の執行に支障があると判断した場合は、監査役会は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

## 6. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

### (1) 業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

- ① 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
毎月開催される取締役会には、原則として全ての役員が出席するものとし、各取締役は職務の執行状況について報告し、監査役は取締役の職務の執行状況を監督する。また、監査役による日常の業務監査によって、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合しているか監視する。
- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
取締役の職務の執行に係る情報及び文書については、文書管理規程及び機密管理規程に従い適切に保存及び管理を行い、取締役及び監査役が常時閲覧できる体制とする。また、必要に応じて運用状況の検証、各規程等の見直しを行うものとする。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
リスク管理規程を制定し、リスク管理責任者並びにリスクへの対応手続を明確化することで、部署横断的なリスク管理体制を構築する。定期的にリスク管理に関する情報共有の場を設け、リスクを低減するための施策を講じるほか、実際にリスクが顕在化した場合には、リスクの内容及びそれがもたらす損失の程度等についてリスク管理責任者が検討を行い、直ちにトップマネジメントその他の関係者に報告される体制とする。
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
経営計画のマネジメントについては、経営理念及び経営基本方針に基づき毎年策定される年度事業予算に従い、各業務執行ラインにおいて目標達成のための活動を行うものとする。また、経営目標が当初の予定通りに進捗しているか、業績報告を通じて定期的に検証を行う。  
業務執行のマネジメントについては、取締役会規程において定められている事項及びその付議基準に該当する事項については全て取締役会に付議するこ

とを遵守し、その際には経営判断の原則に基づき、事前に議題に関する十分な資料が全役員に配付される体制をとるものとする。

日常の職務遂行に際しては、職務権限規程、業務分掌規程等に基づいて権限の委譲を行い、各レベルの責任者が意思決定ルールに従い業務を遂行するものとする。

⑤ 当社並びにその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社の取締役又は使用人に子会社取締役を兼務させることにより、子会社の業務執行に対して適切な管理を行うものとする。子会社取締役は、子会社の経営成績、財務状態、使用人の業務執行状況及びその他の情報について毎月開催される当社取締役会にて定期報告することとし、重要な事象が発生した場合には速やかに報告するものとする。

当社は、子会社の適切かつ効率的な業務執行及び事業運営に関する様々なリスクの顕在化の未然防止のため、子会社には一部独自業務に関するものを除き、当社の主要規程を共通して使用させることで、当社と同水準の管理体制を構築する。

当社内部監査部門による内部監査を当社グループ全体に対して横断的に適用することで、当社グループ全体の適切な業務執行状況を評価する。

⑥ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

全使用人に法令及び定款の遵守を徹底させるため、コンプライアンス企業倫理規程を制定し、行動基準の周知を図るとともに、コンプライアンス規程を制定し、万一コンプライアンスに関連する事態が発生した場合には、速やかに監査役、顧問弁護士及びトップマネジメントに報告される体制を構築する。また、これらの実効性を高めるため、定期的に研修会を開催し、コンプライアンスに対する関心と知識の向上を図るものとする。同時に、内部通報制度を導入し、法令及び定款に違反する行為を早期に発見できる体制を構築する。

⑦ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

内部監査を担当する内部監査部門を監査役の職務を補助すべき部署とし、監査役の求めに応じて内部監査担当がその任に当たる。

- ⑧ 監査役の職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項  
監査役の職務を補助すべき使用人の任命、異動等については、事前に監査役会の同意を得るものとする。また、当該使用人の人事評価に際しては、監査役の意見を聴取するものとする。
- ⑨ 監査役の職務を補助すべき使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項  
内部監査規程に基づき、内部監査部門は、監査役から監査役の職務に関する補助の求めがあった場合、他の職務等に優先してその指示に従うものとする。
- ⑩ 当社の取締役及び使用人、並びに当社子会社の取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制  
当社の取締役及び使用人は、監査役の求めに応じて必要な報告及び情報提供を行うものとする。また、当社グループの監査の実効性を高めるため、当社の常勤監査役は当社子会社の監査役を兼務して同様に報告及び情報提供を受ける。なお、当該報告及び情報提供の主なものは、次のとおりとする。
- イ 当社グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事実
  - ロ 内部統制システム構築に関わる部門の活動状況
  - ハ 内部監査部門の活動状況
  - ニ 重要な会計方針、会計基準及びその変更
  - ホ 業績及び業績見込の発表内容、重要開示書類の内容
  - ヘ 内部通報制度の運用及び通報の内容
  - ト 稟議書及び監査役から要求された会議議事録の回付の義務付け
- ⑪ 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
内部通報規程に基づき、通報者に対する報復行為を禁止するとともに、通報先に定められている常勤監査役には当該報復行為に対して中止命令を発する権限を与えるものとする。

⑫ 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項  
監査役の職務執行により生ずる費用については、通常の監査費用は監査役会の決議を経て年度事業予算に織り込み、予算執行として支出するものとし、緊急の監査費用が発生する場合は、監査役会の決議を経て経営企画部長に予算管理規程に基づく予算修正を求めるものとする。

⑬ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
監査役、内部監査人及び監査法人の三者による意見交換会を定期的を開催するものとする。また、監査役は、必要に応じて外部専門家の意見を聴取する機会を与えられるものとする。

⑭ 反社会的勢力排除に向けた体制  
社会の秩序や安全に影響を与える反社会的勢力とは一切の関係を持たないことを基本方針とし、反社会的勢力からの不当要求や働きかけに対しては、顧問弁護士や所轄警察署等の外部専門機関と綿密に連携し、毅然とした態度で、組織的に対応することとする。

この基本方針を徹底するため、反社会的勢力に対応する主管部署を経営企画部とし、経営企画部が外部専門機関から随時情報を収集し、当該情報を一元管理するとともに、反社会的勢力対策規程及び関連マニュアル等を制定し、不当要求や働きかけに備えるものとする。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、上記の「内部統制システムの構築に関する基本方針」に基づき、以下の取組みを行っております。

① 取締役会は、月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、止むを得ない場合を除き全ての役員が出席した上で、経営一般に関する事項や業務執行に関する事項等、取締役会規程において定められている事項について決議又は報告を行っております。

② リスク管理規程により、原則として3ヶ月ごとにリスク管理会議を開催し、取締役会に報告しております。

- ③ 業務分掌規程及び職務権限規程により、組織単位の業務分掌と各職位の権限を明確化して業務の組織的かつ効率的な運営を図り、コンプライアンス企業倫理規程及びコンプライアンス規程により、取締役・従業員が法令及び定款に則って行動するよう徹底しております。また、各規程は、法令改正、組織変更等に応じて、適時に制定・改定を行っております。
- ④ 監査役会は、幅広い協議を重ね、経営に対しても積極的に助言や提言を行っております。また、各監査役は、必要な報告及び情報提供を適時に受けた上で、代表取締役社長、会計監査人、各部門の責任者との会合を通じて意見交換を行っております。
- ⑤ 新規取引先との資金授受を伴う契約締結に際しては、暴力団排除条項を明記するか、別途覚書等にて暴力団排除に係る書面を取り交わすこととしているほか、警察、暴力追放運動推進センター、弁護士等の外部専門機関と緊密な連携を図り、関係を遮断する体制を構築しております。

---

(注) 本事業報告に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てております。また、比率は表示単位未満を四捨五入しております。

# 連結貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目            | 金 額       | 科 目              | 金 額        |
|----------------|-----------|------------------|------------|
| <b>資 産 の 部</b> |           | <b>負 債 の 部</b>   |            |
| 流 動 資 産        | 3,322,333 | 流 動 負 債          | 880,979    |
| 現金及び預金         | 2,032,575 | 買掛金              | 8,763      |
| 売掛金            | 651,686   | 短期借入金            | 25,000     |
| 仕掛品            | 254,260   | 未払金              | 208,370    |
| 前渡金            | 274,954   | 未払法人税等           | 46,935     |
| その他            | 108,856   | 前受金              | 222,978    |
| 固 定 資 産        | 269,805   | 受注損失引当金          | 355,243    |
| 有形固定資産         | 1,977     | その他              | 13,688     |
| 建物             | 1,720     | 固 定 負 債          | 1,223,768  |
| 工具、器具及び備品      | 256       | 転換社債型新株予約権付社債    | 600,000    |
| 無形固定資産         | 57        | 長期借入金            | 600,000    |
| 投資その他の資産       | 267,770   | 退職給付に係る負債        | 19,320     |
| 投資有価証券         | 249,161   | その他              | 4,448      |
| その他            | 18,608    | 負 債 合 計          | 2,104,748  |
|                |           | <b>純 資 産 の 部</b> |            |
|                |           | 株 主 資 本          | 1,451,704  |
|                |           | 資本金              | 611,711    |
|                |           | 資本剰余金            | 9,917,311  |
|                |           | 利益剰余金            | △9,077,244 |
|                |           | 自己株式             | △73        |
|                |           | その他の包括利益累計額      | △21,540    |
|                |           | その他有価証券評価差額金     | △21,540    |
|                |           | 新 株 予 約 権        | 57,226     |
|                |           | 純 資 産 合 計        | 1,487,390  |
| 資 産 合 計        | 3,592,139 | 負 債 純 資 産 合 計    | 3,592,139  |

# 連結損益計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                     | 金         | 額         |
|-------------------------|-----------|-----------|
| 売 上 高                   |           | 1,077,737 |
| 売 上 原 価                 |           | 653,158   |
| 売 上 総 利 益               |           | 424,579   |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費     |           | 1,585,975 |
| 営 業 損 失                 |           | 1,161,396 |
| 営 業 外 収 益               |           |           |
| 受 取 利 息                 | 117       |           |
| 雑 収 入                   | 1,380     | 1,498     |
| 営 業 外 費 用               |           |           |
| 支 払 利 息                 | 5,207     |           |
| 支 払 手 数 料               | 18,000    |           |
| 為 替 差 損                 | 1,524     |           |
| 雑 損 失                   | 2,624     | 27,355    |
| 経 常 損 失                 |           | 1,187,254 |
| 特 別 利 益                 |           |           |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 益       | 4,419     |           |
| 新 株 予 約 権 戻 入 益         | 1,173     | 5,592     |
| 特 別 損 失                 |           |           |
| 固 定 資 産 除 却 損           | 854       |           |
| 減 損 損 失                 | 5,982,139 |           |
| 段 階 取 得 に 係 る 差 損       | 149,600   | 6,132,594 |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 損 失   |           | 7,314,255 |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 |           | 2,140     |
| 当 期 純 損 失               |           | 7,316,396 |
| 非支配株主に帰属する当期純損失         |           | —         |
| 親会社株主に帰属する当期純損失         |           | 7,316,396 |



## 連結株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本 |           |            |         |             |
|-------------------------|---------|-----------|------------|---------|-------------|
|                         | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金  | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 当 期 首 残 高               | 591,338 | 3,864,323 | △1,760,848 | -       | 2,694,813   |
| 当 期 変 動 額               |         |           |            |         |             |
| 新 株 の 発 行               | 20,372  | 20,372    |            |         | 40,745      |
| 株式交換による増加               |         | 6,032,615 |            |         | 6,032,615   |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 損 失 |         |           | △7,316,396 |         | △7,316,396  |
| 自己株式の取得                 |         |           |            | △73     | △73         |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |         |           |            |         |             |
| 当 期 変 動 額 合 計           | 20,372  | 6,052,988 | △7,316,396 | △73     | △1,243,108  |
| 当 期 末 残 高               | 611,711 | 9,917,311 | △9,077,244 | △73     | 1,451,704   |

|                         | その他の包括利益累計額      |                   | 新株予約権  | 純資産合計      |
|-------------------------|------------------|-------------------|--------|------------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | その他の包括利益<br>累計額合計 |        |            |
| 当 期 首 残 高               | 1,611            | 1,611             | 34,844 | 2,731,269  |
| 当 期 変 動 額               |                  |                   |        |            |
| 新 株 の 発 行               |                  |                   |        | 40,745     |
| 株式交換による増加               |                  |                   |        | 6,032,615  |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 損 失 |                  |                   |        | △7,316,396 |
| 自己株式の取得                 |                  |                   |        | △73        |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | △23,151          | △23,151           | 22,381 | △769       |
| 当 期 変 動 額 合 計           | △23,151          | △23,151           | 22,381 | △1,243,878 |
| 当 期 末 残 高               | △21,540          | △21,540           | 57,226 | 1,487,390  |

# 連 結 注 記 表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

## 1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

- ・連結子会社の数 3社
- ・連結子会社の名称 (株)セルテクノロジー (注) 1  
(株)日本再生医療 (注) 2  
(株)レムケア

(注) 1. 2019年4月1日の株式取得に伴い、当連結会計年度より連結子会社となりました。また、2019年10月1日付で(株)セルテクノロジーからの会社分割により(株)レムケアを新設し、連結の範囲に含めております。

2. 2020年2月17日の株式取得に伴い、当連結会計年度より連結子会社となりました。なお、みなし取得日を当連結会計年度末としているため、当連結会計年度は貸借対照表のみ連結しております。

## 2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

## 3. 会計方針に関する事項

### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

#### ①有価証券

その他有価証券

- ・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

- ・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### ②たな卸資産

仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

#### ①有形固定資産

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く。)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

- 建物 15年
- 工具、器具及び備品 6～15年

## ②無形固定資産

定額法を採用しております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

### 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において損失の発生が見込まれるものについて、損失見込額を計上しております。

## (4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

### ①退職給付に係る負債の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における簡便法による退職給付債務に基づき計上しております。

### ②重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結会計年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として計上しております。また、外貨建有価証券（その他有価証券）は、連結会計年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。

### ③消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(連結貸借対照表に関する注記)

|                                                     |           |
|-----------------------------------------------------|-----------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額                                   | 35,602千円  |
| 2. たな卸資産及び受注損失引当金の表示                                |           |
| 損失の発生が見込まれる受注契約に係るたな卸資産と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。 |           |
| 受注損失引当金に対応するたな卸資産の額                                 |           |
| 仕掛品                                                 | 251,060千円 |

(連結損益計算書に関する注記)

|                          |           |
|--------------------------|-----------|
| 1. 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額 | 355,243千円 |
| 2. 研究開発費の総額              | 898,158千円 |

### 3. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

| 用途  | 種類  | 場所                    | 減損損失        |
|-----|-----|-----------------------|-------------|
| その他 | のれん | 東京都中央区<br>(株セルテクノロジー) | 5,938,083千円 |
| その他 | のれん | 東京都港区<br>(株日本再生医療)    | 43,734千円    |

当社グループは、各社単位でグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、株式交換により(株)セルテクノロジーを、また、追加取得により(株)日本再生医療を、それぞれ連結子会社化いたしました。両社の事業計画の策定に際し将来の不確実性を検討した結果、両社に発生したのれんについてその帳簿価額全額を減損損失として計上しております。なお、回収可能価額は使用価値をゼロとして算定しております。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び数  
普通株式 27,646,986株
2. 当連結会計年度末における新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数  
普通株式 780,200株

(金融商品に関する注記)

#### 1. 金融商品の状況に関する事項

##### (1) 金融商品に対する取組方針

研究開発計画に照らして必要な資金を、増資等により調達しております。また、一時的な余資は、短期的な預金等に限定して運用しております。

##### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、販売管理規程に従って主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する取引先企業の株式であり、株式の発行体（取引先企業）のリスクに晒されており、このうち外貨建ての投資有価証券は為替の変動リスクにも晒されております。当該リスクに関しては、定期的に発行体（取引先企業）の財務状況を把握することにより、リスク管理を行っております。

営業債務である買掛金及び未払金は、すべて1年以内の支払期日であります。

借入金及び転換社債型新株予約権付社債、主に研究開発に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で連結決算日後5年であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(4) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち86.1%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2参照）。

|                       | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価<br>(千円) | 差額<br>(千円) |
|-----------------------|--------------------|------------|------------|
| (1) 現金及び預金            | 2,032,575          | 2,032,575  | —          |
| (2) 売掛金               | 651,686            | 651,686    | —          |
| (3) 投資有価証券<br>その他有価証券 | 94,488             | 94,488     | —          |
| 資産計                   | 2,778,750          | 2,778,750  | —          |
| (1) 未払金               | 208,370            | 208,370    | —          |
| (2) 長期借入金             | 600,000            | 600,000    | —          |
| 負債計                   | 808,370            | 808,370    | —          |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(1) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

変動金利によるものであり、短期間で市場金利が反映されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分            | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) |
|---------------|--------------------|
| 非上場株式         | 154,672            |
| 転換社債型新株予約権付社債 | 600,000            |

上記については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

|        | 1年以内 (千円) |
|--------|-----------|
| 現金及び預金 | 2,032,575 |
| 売掛金    | 651,686   |
| 合計     | 2,684,262 |

4. 有利子負債の連結決算日後の返済予定額

|       | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>2年以内<br>(千円) | 2年超<br>3年以内<br>(千円) | 3年超<br>4年以内<br>(千円) | 4年超<br>5年以内<br>(千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 長期借入金 | —            | —                   | 75,000              | 300,000             | 225,000             |
| 合計    | —            | —                   | 75,000              | 300,000             | 225,000             |

(1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 51.73円
- 1株当たり当期純損失 264.65円

(重要な後発事象に関する注記)

第三者割当による第3回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第10回新株予約権の発行

2020年3月23日開催の取締役会における第三者割当の方法による第3回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第10回新株予約権の発行に関する決議に基づき、2020年4月8日付で当該発行に係る払込みが完了いたしました。その概要は次のとおりであります。

1. 第3回無担保転換社債型新株予約権付社債

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 発行価額の総額                  | 600,000,000円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| (2) 発行価額                     | 額面100円につき金100円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| (3) 払込期日（発行日）                | 2020年4月8日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| (4) 募集の方法及び割当先               | 第三者割当の方法により、CVI Investments, Inc. に割り当てる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| (5) 利率                       | 利息は付さない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| (6) 償還金額                     | 額面100円につき金100円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| (7) 償還期限                     | 2023年7月31日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| (8) 新株予約権に関する事項              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ① 新株予約権の総数                   | 30個                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ② 新株予約権の目的となる株式の種類           | 当社普通株式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ③ 新株予約権の目的となる株式の数            | 本新株予約権の行使により当社が当社普通株式を新たに発行し又はこれに代えて当社の保有する当社普通株式を処分する数は、行使請求に係る本社債の払込金額の総額を下記④記載の転換価額で除した数とする。ただし、行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。                                                                                                                                                                                                             |
| ④ 転換価額                       | 1株当たり479円（当初）<br>転換価額は、2021年1月9日、2021年7月9日、2022年1月9日、2022年7月9日、2023年1月9日及び2023年7月9日（以下、個別に又は総称して「CB修正日」という。）において、当該CB修正日に先立つ15連続取引日において東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の売買高加重平均価格の最も低い2つの価額の合計金額を2で除した金額（1円未満の端数切り上げ）の91%に相当する金額の1円未満の端数を切り上げた金額、又は当該CB修正日において有効な転換価額のいずれか低い方に修正される。ただし、CB修正日にかかる修正後の転換価額が240円（以下、「下限転換価額」という。）を下回ることとなる場合には転換価額は下限転換価額とする。 |
| ⑤ 行使期間                       | 2020年4月8日から2023年7月31日まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ⑥ 新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額 | 会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。                                                                                                                                                                                                                      |
| (9) 担保・保証の有無                 | なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| (10) 資金の用途                   | JRM-001開発における国内第Ⅲ相臨床試験実施に伴う費用に充当する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

## 2. 第10回新株予約権

|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 払込期日（発行日）                   | 2020年4月8日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| (2) 募集の方法及び割当先                  | 第三者割当の方法により、CVI Investments, Inc. に割り当てる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| (3) 新株予約権の総数                    | 16,284個                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| (4) 新株予約権の目的となる株式の種類            | 当社普通株式                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| (5) 新株予約権の目的となる株式の数             | 1,628,400株                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| (6) 新株予約権の発行価額の総額               | 4,852,632円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| (7) 新株予約権の発行価額                  | 新株予約権1個につき298円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| (8) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の総額   | 780,003,600円（注）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| (9) 行使価額及び行使価額の修正条件             | 1株当たり479円（当初）<br>行使価額は、2021年1月9日、2021年7月9日、2022年1月9日、2022年7月9日、2023年1月9日、2023年7月9日、2024年1月9日及び2024年7月9日（以下、「本新株予約権修正日」という。）の各日において、当該本新株予約権修正日に先立つ15連続取引日において、東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の売買高加重平均価格の最も低い2つの価額の合計金額を2で除した金額（1円未満の端数切り上げ）の90%に相当する金額の1円未満の端数を切り上げた金額、又は当該本新株予約権修正日において有効な行使価額のいずれか低い金額に修正される。ただし、修正後の行使価額が240円（以下、「下限行使価額」という。）を下回ることとなる場合には行使価額は下限行使価額とする。 |
| (10) 行使期間                       | 2020年4月9日から2024年7月9日まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| (11) 新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額 | 会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。                                                                                                                                                                                                                                         |
| (12) 資金の使途                      | 心臓内幹細胞を用いた再生医療等製品の開発費用に充当する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

（注）本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の総額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。行使価額が修正又は調整された場合には、調達資金の額は減少します。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、調達資金の額は減少します。



(その他の注記)

## 1. 取得による企業結合（株式交換による(株)セルテクノロジーの完全子会社化)

### (1) 企業結合の概要

#### ①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称：(株)セルテクノロジー

事業の内容：再生医療事業

#### ②企業結合を行った主な理由

当社は、2001年の創業時にバイオ新薬事業を立ち上げ、その後2012年の東京証券取引所マザーズ市場への上場を機に、2007年より推進してきたバイオンシミュラー事業を本格稼働させ、事業基盤を築いてまいりました。これらGTS1.0及びGTS2.0のステージを経て、2018年度よりGTS3.0として「バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー」を目標に掲げ、これまでの事業活動で得てきたノウハウ・技術を最大限活用し、従来より手掛けてきた希少疾患、難病に加えて、小児疾患を重点的なターゲットと定め、これらの疾患に悩む患者様、そのご家族や介護者の方を含めた包括的なケアを目指して、新薬のみならず新たな医療の開発・提供に取り組んでおります。難病といわれる疾患は、現在の医療技術・医薬品等では効果が無い、あるいは効果が薄く根治が困難なため、既存技術とは異なるまったく新しい治療方法の創出が求められております。このうち、組織への分化、再生能力や免疫調節機能を持つ幹細胞を用いて、心筋、神経、骨、皮膚などの重要な組織の修復・再生を図る再生医療は、様々な細胞に分化する幹細胞の特性故に多様な治療方法に応用することが可能なため、難病等の最も有効な治療法として注目されており、当社においても将来の重要な成長事業と位置付け、研究開発を鋭意推進しております。しかしながら、幹細胞は安定的に確保・保管することが困難であり、治療方法への応用を行う前に幹細胞の確保及び製造技術を確立することが課題とされておりました。

一方、セルテクノロジーは、歯の内部に存在する歯髄と呼ばれる細胞を用いた幹細胞の製造技術を確立し、この歯髄幹細胞を利用した新しい医療技術や再生医療等製品の開発及び開発支援を目的として2008年に設立されました。現在では、全国約2,200施設の歯科クリニックと連携し、国内初となる歯髄幹細胞保管事業を運営する一方で、大手製薬企業や大学等の研究機関と連携し、歯髄幹細胞を用いた再生医療の実用化に取り組んでおります。

このような状況の下、GTS3.0実現のため、重要な成長事業である再生医療（細胞治療）において様々な戦略を検討していた当社と、歯髄幹細胞を活用し新たな事業展開を検討していたセルテクノロジーの方向性が一致し、これまで両社間で協業について検討を重ねてきた結果、当社がセルテクノロジーを完全子会社とすることで、双方の再生医療事業において非常に大きなシナジーを得られるとの結論に至りました。

#### ③企業結合日

2019年4月1日

#### ④企業結合の法的形式

当社を株式交換完全親会社、セルテクノロジーを株式交換完全子会社とする株式交換

⑤結合後企業の名称  
変更はありません。

⑥取得した議決権比率  
100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠  
当社が当社株式を対価としてセルテクノロジーの全株式を取得するためであります。

(2) 連結計算書類に含まれている被取得企業の業績の期間  
2019年4月1日から2020年3月31日まで

(3) 取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

|       |        |             |
|-------|--------|-------------|
| 取得の対価 | 当社普通株式 | 6,032,615千円 |
| 取得原価  |        | 6,032,615千円 |

(4) 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

①株式の種類別の交換比率

|              | 当社<br>(株式交換完全親会社) | セルテクノロジー<br>(株式交換完全子会社) |
|--------------|-------------------|-------------------------|
| 本株式交換に係る割当比率 | 1                 | 普通株式 1.30               |
|              |                   | A種優先株式 1.48             |

(注) 本株式交換に係る割当比率(以下、「本株式交換比率」という。)

当社は、本株式交換により当社がセルテクノロジーの発行済株式の全部を取得する時点の直前時におけるセルテクノロジーの株主の皆様に対し、その保有するセルテクノロジーの普通株式1株に対して、当社の普通株式(以下、「当社株式」という。)1.30株、セルテクノロジーのA種優先株式1株に対して、当社株式1.48株を割当て交付いたしました。

なお、セルテクノロジーの定款上、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者は、普通株主又は普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株につき160円の残余財産の分配を優先して受ける権利を有していることから、本株式交換においては、当該権利を考慮した上で、本株式交換比率を決定しております。

②交換比率の算定方法

当社は、本株式交換の株式交換比率の公正性を確保するため、当社及びセルテクノロジーから独立した第三者算定機関に株式交換比率の算定を依頼することとし、山田コンサルティンググループ(株)(以下、「山田コンサル」という。)を株式交換比率算定のための第三者算定機関として選定いたしました。

当社は、第三者算定機関である山田コンサルから受領した株式交換比率算定書、当社及びセルテクノロジーと重要な利害関係を有しない法務アドバイザーである阿部・井窪・片山法律事務所からの助言並びにセルテクノロジーに対して実施したデューデリジェンスの結果等を勘案し、慎重に協議・検討いたしました。その結果、本株式交換比率は、山田コンサルから受領した株式交換比率の算定結果の範囲内であり、当社の株主の皆様の利益を損ねるものではないとの判断に至ったため、本株式交換比率により本株式交換を行うことが妥当であると判断いたしました。

③ 交付した当社株式数

本株式交換により交付した当社株式は7,250,740株であり、当社は、本株式交換に際し、新たに普通株式の発行を行っております。

(5) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 23,500千円

(6) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん

5,938,083千円

② 発生原因

被取得企業の取得原価が企業結合時の時価純資産を上回ることにより発生しております。

③ 償却方法及び償却期間

当期において、全額を減損損失として計上しております。

(7) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

|      |                  |
|------|------------------|
| 流動資産 | 419,184千円        |
| 固定資産 | 14,895千円         |
| 資産合計 | <u>434,079千円</u> |
| 流動負債 | 333,813千円        |
| 固定負債 | 5,734千円          |
| 負債合計 | <u>339,547千円</u> |

(8) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度の期首が取得日であるため、該当事項はありません。

## 2. 取得による企業結合（株式の追加取得による㈱日本再生医療の完全子会社化）

### (1) 企業結合の概要

#### ①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：㈱日本再生医療

事業の内容：再生医療技術・製品、細胞医薬品の研究開発事業等

#### ②企業結合を行った主な理由

ノーリツ鋼機㈱は、子会社である㈱日本再生医療の今後の事業展開を様々な角度から検討した結果、㈱日本再生医療を資本業務提携先である当社に譲渡し、経営資源を集中させることで共に事業の成長を目指す環境を作ることが最善であるとの判断に至りました。この見解を踏まえて両者で協議を行った結果、当社においても、㈱日本再生医療の心臓内幹細胞の事業化をより円滑かつ迅速に進めるには、バイオ医薬品の上市実績及び再生医療事業を抱える当社が引き受けることが最善との判断に至り、㈱日本再生医療の譲渡について合意いたしました。

#### ③企業結合日

2020年2月17日（株式取得日）

2020年3月31日（みなし取得日）

#### ④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

#### ⑤結合後企業の名称

変更はありません。

#### ⑥取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 5.3%

企業結合日に追加取得した議決権比率 94.7%

---

取得後の議決権比率 100.0%

#### ⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価とする株式の取得により議決権の100%を取得したためであります。

### (2) 連結計算書類に含まれている被取得企業の業績の期間

当連結会計年度末日をみなし取得日とし、貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

### (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に所有していた㈱日本再生医療の企業結合日における時価 0千円

追加取得に伴い支出した現金 0千円

---

取得原価 0千円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

弁護士に対する報酬・手数料等 2,099千円

(5) 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差損 149,600千円

(6) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれん

43,734千円

②発生原因

被取得企業の取得原価が企業結合時の時価純資産を上回ることにより発生しております。

③償却方法及び償却期間

当期において、全額を減損損失として計上しております。

(7) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

|      |                 |
|------|-----------------|
| 流動資産 | 31,095千円        |
| 固定資産 | 105千円           |
| 資産合計 | <u>31,200千円</u> |
| 流動負債 | 24,934千円        |
| 固定負債 | 50,000千円        |
| 負債合計 | <u>74,934千円</u> |

(8) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

影響の概算額については、合理的な算定が困難であるため記載しておりません。

### 3. 共通支配下の取引等（連結子会社(株)セルテクノロジーの新設分割）

#### (1) 取引の概要

##### ①対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：歯髄幹細胞培養上清事業（美容クリニック等向け事業）

事業の内容：美容クリニック等向けの歯髄幹細胞培養上清の販売

##### ②企業結合日

2019年10月1日

##### ③企業結合の法的形式

当社の連結子会社である(株)セルテクノロジーを分割会社、新設会社を承継会社とする新設分割（簡易新設分割）

##### ④結合後企業の名称

(株)レムケア

##### ⑤その他取引の概要に関する事項

当社の連結子会社である(株)セルテクノロジーの歯髄幹細胞培養上清事業のうち、医薬品研究開発に関する事業をこれまでどおり(株)セルテクノロジーが運営し、美容クリニック等向けの事業運営及び権利義務を本新設分割によって(株)レムケアに承継いたしました。当社グループの基幹事業である医薬品研究開発事業をグループ内でより明確に切り分けることで、経営資源の最適化を行い、各事業の効率的な推進を図ることが目的であります。

#### (2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理をしております。

~~~~~  
(注) 連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び本連結注記表に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てております。また、比率は表示単位未満を四捨五入しております。

# 貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>資 産 の 部</b>		<b>負 債 の 部</b>	
<b>流 動 資 産</b>	<b>3,206,638</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>818,009</b>
現金及び預金	1,950,853	買掛金	5,500
売掛金	645,066	未払金	189,985
仕掛品	254,260	未払費用	1,759
前渡金	274,954	未払法人税等	46,118
前払費用	7,004	前受金	216,554
その他	74,498	預り金	2,848
<b>固 定 資 産</b>	<b>318,062</b>	受注損失引当金	355,243
有形固定資産	1,872	<b>固 定 負 債</b>	<b>1,219,320</b>
建物	1,720	転換社債型新株予約権付社債	600,000
工具、器具及び備品	151	長期借入金	600,000
無形固定資産	57	退職給付引当金	19,320
商標権	57	<b>負 債 合 計</b>	<b>2,037,329</b>
投資その他の資産	316,132	<b>純 資 産 の 部</b>	
投資有価証券	249,161	<b>株 主 資 本</b>	<b>1,451,685</b>
関係会社株式	43,707	資本金	611,711
関係会社長期貸付金	50,000	資本剰余金	9,917,311
その他	16,998	資本準備金	9,917,311
貸倒引当金	△43,734	利益剰余金	△9,077,264
		その他利益剰余金	△9,077,264
		繰越利益剰余金	△9,077,264
		自己株式	△73
		評価・換算差額等	△21,540
		その他有価証券評価差額金	△21,540
		新株予約権	57,226
<b>資 産 合 計</b>	<b>3,524,700</b>	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>1,487,371</b>
		<b>負 債 純 資 産 合 計</b>	<b>3,524,700</b>

# 損 益 計 算 書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		964,345
売 上 原 価		444,743
売 上 総 利 益		519,601
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,489,166
営 業 損 失		969,564
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	117	
業 務 受 託 料	31,200	
雑 収 入	1,265	32,582
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	4,455	
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	43,734	
支 払 手 数 料	18,000	
為 替 差 損	1,524	
雑 損 失	2,366	70,080
経 常 損 失		1,007,062
特 別 利 益		
投 資 有 価 証 券 売 却 益	4,419	
新 株 予 約 権 戻 入 益	1,173	5,592
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	854	
減 損 損 失	173,969	
関 係 会 社 株 式 評 価 損	6,138,508	6,313,332
税 引 前 当 期 純 損 失		7,314,802
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		1,613
当 期 純 損 失		7,316,415



# 株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本							株主資本計 合
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	
		準備金	資 剰 余 合 計	そ の 他 剰 余 金 線 引	利 益 剰 余 金 線 引	利 益 剰 余 金 計		
当期首残高	591,338	3,864,323	3,864,323	△1,760,848	△1,760,848	—	2,694,813	
当期変動額								
新株の発行	20,372	20,372	20,372				40,745	
株式交換による増加		6,032,615	6,032,615				6,032,615	
当期純損失				△7,316,415	△7,316,415		△7,316,415	
自己株式の取得						△73	△73	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	20,372	6,052,988	6,052,988	△7,316,415	△7,316,415	△73	△1,243,127	
当期末残高	611,711	9,917,311	9,917,311	△9,077,264	△9,077,264	△73	1,451,685	

	評価・換算差額等		新株予約権	純 資 産 計 合
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	1,611	1,611	34,844	2,731,269
当期変動額				
新株の発行				40,745
株式交換による増加				6,032,615
当期純損失				△7,316,415
自己株式の取得				△73
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△23,151	△23,151	22,381	△769
当期変動額合計	△23,151	△23,151	22,381	△1,243,897
当期末残高	△21,540	△21,540	57,226	1,487,371

# 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

## 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

### (2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

## 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

## 3. 固定資産の減価償却の方法

### (1) 有形固定資産

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く。)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15年

工具、器具及び備品 6～15年

### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

## 4. 引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### (2) 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末において損失の発生が見込まれるものについて、損失見込額を計上しております。

### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における簡便法による退職給付債務に基づき計上しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として計上しております。また、外貨建有価証券（その他有価証券）は、事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。

6. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（表示方法の変更に関する注記）

1. 貸借対照表

前事業年度において独立掲記していた「投資その他の資産」の「差入保証金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。

2. 損益計算書

前事業年度において独立掲記していた「営業外費用」の「株式交付費」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「雑損失」に含めて表示しております。

（貸借対照表に関する注記）

有形固定資産の減価償却累計額 5,515千円

（損益計算書に関する注記）

1. 関係会社との取引高

営業取引による取引高

販売費及び一般管理費 304千円

営業取引以外の取引による取引高

業務受託料 31,200千円

2. 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

用途	種類	場所	減損損失
その他	のれん	東京都中央区	173,969千円

当社は、管理会計上の事業ごとにグルーピングを行っております。

マスターセルバンクの構築に関する事業において、将来キャッシュ・フローに不確実性があると判断したのれんについてその帳簿価額全額を減損損失として計上しております。なお、回収可能価額は使用価値をゼロとして算定しております。

（株主資本等変動計算書に関する注記）

当事業年度末における自己株式の種類及び数

普通株式 92株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

退職給付引当金	5,911千円
研究開発費	62,491千円
投資有価証券評価損	12,982千円
関係会社株式評価損	1,885,840千円
受注損失引当金	55,469千円
税務上の繰越欠損金 (注)	1,954,719千円
その他	42,058千円
繰延税金資産小計	4,019,474千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注)	1,954,719千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	2,064,755千円
評価性引当額小計	4,019,474千円
繰延税金資産合計	－千円

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当事業年度 (2020年3月31日)

(単位: 千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越 欠損金 (※)	91,632	93,975	115,765	249,680	260,933	1,142,730	1,954,719
評価性引当額	91,632	93,975	115,765	249,680	260,933	1,142,730	1,954,719
繰延税金資産	—	—	—	—	—	—	—

※ 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社

種類	会社等の名称	議決権等の所有割合(被所有)(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	㈱セルテクノロジー	(所有) 直接 100.0	役員 の兼任 管理業務 の受託	業務受託料	18,600	—	—
				事業の譲受 譲受資産 譲受負債 譲受対価	216,273 390,243 —	—	—
子会社	㈱日本再生医療	(所有) 直接 100.0	役員 の兼任 資金の援助	資金の貸付	50,000	関係会社 長期貸付金 (注) 2	50,000
子会社	㈱レムケア	(所有) 間接 100.0	役員 の派遣 管理業務 の受託	業務受託料	12,600	—	—

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針

- (1) 業務受託料は、各子会社への役務提供割合に応じて費用負担額を決定しております。
- (2) 事業譲受はマスターセルバンクの構築に関する事業を譲受したものであり、取引価格は双方協議の上、決定しております。
- (3) 資金の貸付については、市場金利及び子会社の経営状況を勘案し、利率を決定しております。

2. 当該貸付金に対し、43,734千円の貸倒引当金を計上しております。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額 51.73円
2. 1株当たり当期純損失 264.65円

(重要な後発事象に関する注記)

連結計算書類の「連結注記表(重要な後発事象に関する注記)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(その他の注記)

共通支配下の取引等 (当社と連結子会社(株)セルテクノロジーとの間の事業譲渡)

(1) 取引の概要

①対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称：マスターセルバンクの構築に関する事業

事業の内容：歯髄幹細胞を原料とした再生医療等製品に用いるための臨床用マスターセルバンクの構築に関する事業

②企業結合日

2020年1月1日

③企業結合の法的形式

当社の連結子会社である(株)セルテクノロジーを譲渡会社、当社を譲受会社とする事業譲渡

④結合後企業の名称

変更はありません。

⑤その他取引の概要に関する事項

当社は、当社の連結子会社である(株)セルテクノロジーが(株)ニコンとの業務提携契約に基づき開発を進めてきた歯髄幹細胞を原料とした再生医療等製品に用いるための臨床用マスターセルバンクの構築に関する事業を、同社から2020年1月1日付で譲り受けました。これは、マスターセルバンクの製造法が確立し、今後GCTP/GMP製造に向けた準備を本格的に開始することから、GCTP/GMP製造を委託する体制が整っている当社が当該事業を譲り受けることで、開発体制をより一層強化することを目的としております。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理をしております。

---

(注) 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び本個別注記表に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てております。また、比率は表示単位未満を四捨五入しております。

## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2020年6月1日

株式会社ジーンテクノサイエンス  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

札幌事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大 瀧 克 仁 ㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田 辺 拓 央 ㊞

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ジーンテクノサイエンスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジーンテクノサイエンス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。



監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2020年6月1日

株式会社ジーンテクノサイエンス  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

札幌事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大 瀧 克 仁	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	田 辺 拓 央	Ⓜ

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ジーンテクノサイエンスの2019年4月1日から2020年3月31日までの第20期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2019年4月1日から2020年3月31日までの第20期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査方針及び監査計画を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制(内部統制システム)について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(2005年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2020年6月2日

株式会社ジーンテクノサイエンス 監査役会

常勤監査役 林 昭彦 ㊟

社外監査役 森 正人 ㊟

社外監査役 甚 野 章 吾 ㊟

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 定款一部変更の件

#### 1. 提案の理由

取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築することを目的に、取締役の任期を2年から1年に短縮するものであります。

#### 2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

(下線は変更部分を示します。)

現 行 定 款	変 更 案
(取締役の任期) 第 22 条 取締役の任期は、選任後 <u>2</u> 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする。 2 補欠又は増員により選任された取締役の任期は、その選任時に在任する取締役の任期の満了すべき時までとする。	(取締役の任期) 第 22 条 取締役の任期は、選任後 <u>1</u> 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする。 2 補欠又は増員により選任された取締役の任期は、その選任時に在任する取締役の任期の満了すべき時までとする。

## 第2号議案 取締役3名選任の件

取締役全員（3名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、社外取締役2名を含む取締役3名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
1	たに 谷 匡 治 (1974年5月22日)	2000年4月 サントリー(株)入社 2006年1月 武田薬品工業(株)入社 2013年4月 (株)ウィズ・パートナーズ入社 取締役 2014年7月 (株)レグイミュン入社 事業開発部長 2014年10月 当社入社 執行役員事業開発担当部長 2014年12月 ORTHOREBIRTH(株) 社外取締役 2015年5月 当社執行役員CFO兼事業開発担当部長 2015年6月 当社取締役CFO兼執行役員事業開発 担当部長 2016年7月 当社取締役CFO兼執行役員経営企画 室及び管理部総括 事業開発部部長 2017年4月 当社代表取締役社長 (現任)	4,000株



候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
2	えい き のり かず 栄 木 憲 和 (1948年4月17日)	1969年4月 シェル石油(株) (現昭和シェル石油 株) 入社 1973年6月 松下電工(株) (現パナソニック(株)) 入 社 1979年8月 日本チバガイギー(株) (現ノバルティ スファーマ(株)) 入社 経営企画部長 1994年1月 バイエル薬品(株)入社 テクニカルオ ペレーション部長 1997年3月 同社取締役滋賀工場長 2002年7月 同社代表取締役社長 2007年1月 同社代表取締役会長 2010年4月 同社取締役会長 2014年5月 アンジェスMG(株) (現アンジェス(株)) 社外取締役 (現任) 2014年6月 (株)シーエムプラス顧問 (現任) 2015年1月 エイキコンサルティング合同会社代 表社員 (現任) 2015年3月 (株)ファンペップ取締役会長 2015年6月 東和薬品(株)社外取締役 (現任) 2016年4月 ソレイジア・ファーマ(株)社外取締 役 (現任) 2017年1月 (株)ファンペップ社外取締役 (現任) 2018年6月 当社社外取締役 (現任)	一株
3 ※	ち げ あや 千 葉 彩 (1985年12月4日)	2012年4月 聖路加国際病院 歯科口腔外科 初期 研修医入職 2014年4月 医療法人 徳真会 石巻デンタルクリ ニック入職 2016年5月 (株)キャンサーズキャン入社 文京クリア歯科入職 2017年11月 東京大学大学院 医学系研究科 健康 教育・社会学分野 客員研究員 (現 職) 2018年1月 一般社団法人 RAC 代表理事(現職) 2019年1月 丸山デンタルクリニック入職	一株

(注) 1. ※は新任の取締役候補者であります。

2. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。

3. 栄木憲和氏は、社外取締役候補者であります。同氏を社外取締役候補者とした理由は、長年にわたる経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有することから、当社の事業経

営に関する助言・指導を期待したためであります。なお、同氏の当社の社外取締役としての在任期間は、本定時株主総会終結の時をもって2年となります。

4. 千葉彩氏は、社外取締役候補者であります。同氏を社外取締役候補者とした理由は、歯科医及び孤独な子どもに対する里親制度の普及活動を行う一般社団法人の代表理事としての豊富な経験と幅広い見識を有することから、当社の事業経営に関する助言・指導を期待したためであります。なお、同氏は、過去に会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外取締役として、その職務を適切に遂行できるものと判断しております。
5. 当社は、栄木憲和氏を(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。なお、同氏の再任が承認された場合には、引き続き独立役員とする予定であります。また、千葉彩氏につきましても、同取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、同氏の選任が承認された場合には、独立役員として指定する予定であります。

### 第3号議案 監査役3名選任の件

監査役全員（3名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、社外監査役2名を含む監査役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
1 ※	菅原 治 (1958年6月7日)	1981年4月 山之内製薬(株) (現 アステラス製薬(株)) 入社 2001年10月 山之内 BV (現 アステラス BV) 出向 2005年10月 アステラス製薬(株) 財務経理部 次長 2008年3月 同社 秘書室(監査役専任スタッフ) 2010年8月 同社 経理部 会計グループ グループリーダー 2018年11月 当社入社 経営管理本部 2019年4月 当社 内部監査室 (現任)	一株
2	森 正 人 (1965年3月20日)	1987年10月 サンワ・等松青木監査法人 (現有限責任監査法人トーマツ) 入所 1995年7月 シティバンク、エヌ・エイ入社 2001年3月 ぷらっとホーム(株)入社 経営企画部長 2001年6月 同社取締役CFO兼管理本部長 2004年3月 日本テレコム(株) (現ソフトバンク(株)) 入社 経理部長 2005年7月 (株)新生銀行入社 財務経理部部長 2006年8月 森会計事務所 所長 (現任) 2010年10月 当社社外監査役 (現任) 2016年5月 ソーバル(株)社外監査役	800株

候補者 番号	ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
3 ※	しながわ ひろし 品川 広志 (1976年12月7日)	2002年10月 濱田松本法律事務所(現 森・濱田松 本法律事務所) 2009年9月 モルガン・スタンレー証券(株) 投資銀 行本部(現 三菱UFJモルガン・スタ ンレー証券株式会社) 出向 2012年1月 錦華通り法律事務所(現 弁護士法人 エムパートナーズ 神田支所 錦華通 り法律事務所) 開設 弁護士(現任) 2013年3月 星野リゾート・リート投資法人 監督 役員(現任) 2015年6月 (株)みらいワークス 社外監査役(現 任) 2016年3月 (株)セルテクノロジー 社外監査役 2017年7月 (株)インキュリオン・グループ 社外 監査役(現任) 2018年9月 (株)メトセラ 社外監査役(現任) 2020年3月 ジャパンシステム(株) 社外取締役(監 査等委員)(現任) 2020年5月 (株)アデランス 社外監査役(現任)	22,100株

- (注) 1. ※は新任の監査役候補者であります。
2. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
3. 森正人氏は、社外監査役候補者であります。同氏を社外監査役候補者とした理由は、同氏が公認会計士の資格を有しており、その豊富な経験と幅広い見識を社外監査役として当社の監査に活かしていただきたいためであります。なお、同氏の当社の社外監査役としての在任期間は、本定時株主総会終結の時をもって9年8ヶ月となります。
4. 品川広志氏は、社外監査役候補者であります。同氏を社外監査役候補者とした理由は、同氏が弁護士の資格を有しており、その豊富な経験と幅広い見識を社外監査役として当社の監査に活かしていただきたいためであります。なお、同氏は、過去に会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外監査役として、その職務を適切に遂行できるものと判断しております。
5. 当社は、森正人氏を(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。なお、同氏の再任が承認された場合には、引き続き独立役員とする予定であります。また、品川広志氏につきましても、同取引所の定めに基づく独立役員要件を満たしており、同氏の選任が承認された場合には、独立役員として指定する予定であります。

以 上

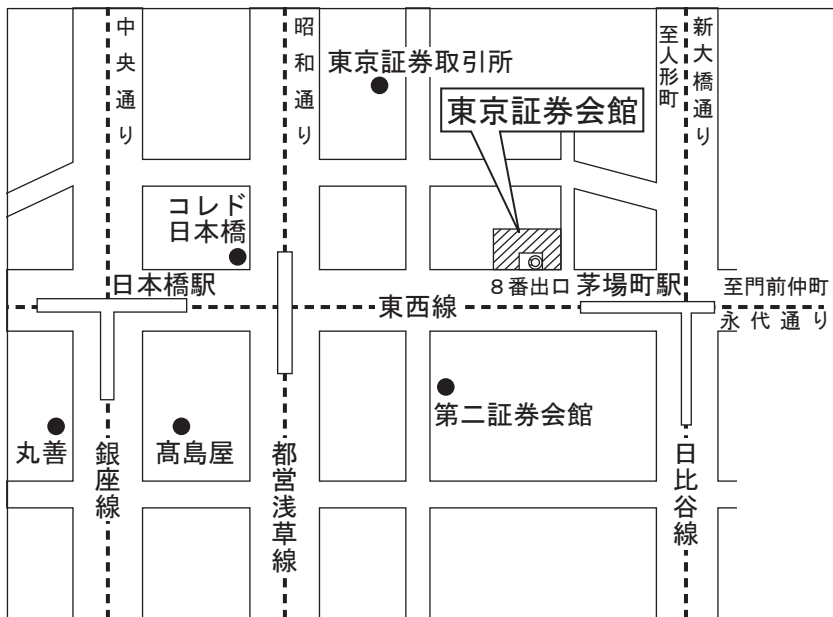






# 株主総会会場ご案内図

会場 東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号  
東京証券会館 9階 第4～5会議室  
電話 03-3667-9210



## ■交通

### J R

- ・東京駅…八重洲北口 徒歩10分

### 地下鉄

- ・東京メトロ東西線・日比谷線 茅場町駅8番出口直結
- ・東京メトロ銀座線・東西線、都営浅草線 日本橋駅…D2出口徒歩5分

## ■お願い

駐車場の用意はいたしておりませんので、お車でのご来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。